

Innovation Times

SDGs 横浜の挑戦

Vol.10

企画・制作＝神奈川新聞社 企画推進室



横浜市と「未来見せる最高の舞台」包括連携

横浜市とバイオベンチャーのユークレナ(東京都港区)は「SDGs未来都市・横浜」の実現に向け、23日、包括連携協定の締結を発表した。ミドリムシ由来のバイオ燃料の利用促進や、バイオ燃料の原料としての廃食油の利用推進などに取り組む。「ヨコハマSDGsデザインセンター」のバイオプロジェクトの一つ。同社の出雲充社長に、

バイオ利用促進へ ミドリムシ由来の燃料

「ミドリムシ由来の「ユークレナバイオディーゼル燃料」は、従来のバイオディーゼル燃料とどう違うのでしょうか。

従来のバイオ燃料混合率の上限は法律上5%ですが、当燃料は組成が異なり、既存ディーゼルエンジンに負荷を掛けずに100%で使用することができます。パリ協定に基づき、わが国は温室効果ガスの排出を2030年までに26%削減を目標としています。6月、福岡や軽井沢で開催されたG20閣議イベントでは、当燃料を26%混合した燃料を大臣や副大臣の送迎車に使用しました。

横浜でユークレナバイオディーゼル燃料の利用促進のために、どのようなビジョンを描いていますか。

当燃料が、今までのバイオ燃料と全く違う新しい燃料であることをまず企業に知ってもらう。車や工事車両から発電機など機器類に至るまで、さまざまに使ってほしいです。

8月2日に開かれる「みなとみらいスマートフェスティバル2019」では、同燃料を会場内の一部発電機に使うなどして、市民の皆さまに広く知っていただくと考えています。

一方で、バイオ燃料の原料

進などに取り組む。「ヨコハマSDGsデザインセンター」のバイオプロジェクトの一つ。同社の出雲充社長に、横浜を舞台にどんな未来像を描き、何を成し遂げていきたいか語ってもらった。

ユークレナ 出雲充社長に聞く



ユークレナ 出雲充社長に聞く

に使う廃食油の回収を促進します。飲食店や給食店はもちろん、小学校を通して、家庭からの回収を進めます。実際、鶴見区内の1校では、児童の家庭から出る廃食油をペットボトルで持ってきてもらう方法での回収を始めています。

出前授業など環境教育にも力を入れていくと伺っています。

市民に広く知っていただくためには、子どもを中心に据えることが最も効果的。インクルーシブ教育も含め、子どもたちに広く関わってもらうことで、市民全員に爆発的に広めることができると思っています。

その一つの方法として、出前授業を積極的展開していきます。理化学研究所と組むなどして、地元川や田んぼでミドリムシを見つけて観察することから始め、工場見学を通して、どうやってバイオディーゼル燃料やバイオエタノールになるのか、分かります。この燃料が、学校やスクールバスを走らせるなど、市民参加型のSDGsの取り組みができたと思いついてもらいます。

「ミドリムシ由来のバイオ燃料の社会実装に向けて、横浜を選んだ理由は何ですか。

アイデア博や環境絵日記などもサミットも

ヨコハマSDGsデザインセンター(DC)は「第2回パートナーシップフォーラム」を8月1、2の両日、横浜市内で開催する。SDGs未来都市・横浜の実現に向けた多様なステークホルダーとの連携を目的としており、3部構成。

第一部は「環境絵日記子どもサミット」(1日午前11時、横浜メディアビネスセンター1階。主催・同DC、共催・横浜市資源リサイクル事業協同組合)。環境絵日記は、環境問題に

ついて、子どもたちが考えた。当日は、選考を通過した6組が発表を行う。

第三部はシンポジウム「SDGs未来都市・横浜の挑戦」(2日午前10時、ランドマークホール。主催・日本経済新聞社、共催・同DCと横浜市)。企業や学識経験者らが基調講演やパネル討論を行う。

いずれも事前申込制、入場無料で、申し込みは第1部が<https://yokohama-sdgs.jp/>、第2部が<https://events.nikkei.co.jp/15829/>(春名 義弘)

ヨコハマSDGsデザインセンター
市内で8月1・2日
「第2回フォーラム」



食品ロス削減について考えるワークショップが9日、横浜メディアビネスセンター1階で開催された。横浜市と横浜メディアビジネス総合研究所が昨年度から取り組む「プロモーション事業」の一環として、食品ロス削減をテーマに、企業や団体などによる削減推進組織の設立を目指している。

「質問する能力は、学校に上がる前の幼い頃から出てくる。学べば学ぶほど落ちていく」。講師のサトウケニチさん(NPO法人ハテナソ共創ラボ代表理事)の言葉にうなずいてしまう。子供は世の決まり事にとらわれず、こだわらずに、自由かつ柔軟な発想ができる。横浜の小学生多数が参加する「環境絵日記」には、大人も舌を巻く作品が毎年ずらりと並ぶ。



「質問する能力は、学校に上がる前の幼い頃から出てくる。学べば学ぶほど落ちていく」。講師のサトウケニチさん(NPO法人ハテナソ共創ラボ代表理事)の言葉にうなずいてしまう。子供は世の決まり事にとらわれず、こだわらずに、自由かつ柔軟な発想ができる。横浜の小学生多数が参加する「環境絵日記」には、大人も舌を巻く作品が毎年ずらりと並ぶ。

次回は8月14日掲載予定